

学びにつながるルーブリックはどうつくればよいのか？

思考力 を育む 評価を考える

ルーブリックは今や多くの大学授業で導入され、学習目標の共有や評価の透明化に大きな役割を果たしています。一方で、「採点ツールとして使ってはいるが、学生の学びにどこまでつながっているのだろう」「もっとうまく活かせるはずだが、どうすればよいのか」と感じている方も多いのではないのでしょうか。ルーブリックにはまだ引き出せていない可能性があります。

今回のFDトークセッションでは、シンキングツールの第一人者であり、初等中等教育段階からルーブリックを研究してきた総合情報学部黒上晴夫教授をお招きします。黒上先生は長年、「子どもがつくるルーブリック」や「思考ルーブリック」の研究を通じて、ルーブリックを単なる評価の道具ではなく、学習者が自ら考える力を育てるための学習ツールとして位置づけられています。

初等中等教育で積み重ねられた実践知は、大学教育にどう活かせるのか。授業設計・学習目標の明確化・学生の自律的な学びや、それぞれの場面でルーブリックをどう機能させるかについて、具体的にお話いただきます。評価ツールとしてのルーブリックを超え、学びそのものを豊かにするための議論の場にしたいと考えています。

途中入退室可

教職員
向け

オンライン

2026年

10/7

水

12:15~13:00

総合情報学部 教授

黒上 晴夫

教育推進部 教授
教育開発支援センター長

岩崎 千晶



プログラム

12:15-12:20 (5分) : 趣旨説明

12:20-12:45 (25分) : 話題提供

12:45-13:00 (15分) : 質疑応答を含むトークセッション

対象者

本学教職員（非常勤講師含む）

申し込み

無料・10月4日(日)締切

本セミナーへのご参加にあたり、合理的配慮をご希望の場合には、準備の都合上、9月23日(水)までに、下記連絡先までご希望の内容をお知らせください。ご希望内容を確認の上、できる限りの対応を検討いたします。

<https://forms.cloud.microsoft/r/ud1qZJOAGk>


関西大学
KANSAI UNIVERSITY

教育開発支援センター
ctl-staff@ml.kandai.jp